

# 知識が活かされる英語の指導とは ～「使い途」あつての知識～

代々木ゼミナール英語講師

佐々木 和彦

文法や構文など、英語の知識を生徒に与えると、そのような知識を与える前よりも生徒の読解スピードが圧倒的に遅くなる場合があります。特に、教えられた知識を使おうとする真面目な生徒にそのような傾向があります。もちろん、今までいい加減に読んでいた英文を、それまでは意識したことがなかったルールや知識を意識しながら読むのですから、一旦、読解のスピードが遅くなるという現象が生じるのは当然です。このようなルールや知識を反復的に使うことでその使い方に慣れ、そのうち、速く、正確に読めるようになるはずだ、という前提で私たちは文法や構文を教えています。しかし、本当にそうだと言い切れるのでしょうか？もしかしたら、与えた知識が、逆に、スムーズな理解の妨げになっている場合もあるのかもしれない。

# 1. 「文型の使い途」って何？

---

---

辞書や参考書に載っている正しい知識やルールでも、私たちが実際に利用していない場面で用いれば、その知識やルールは、無意味なもの、あるいは、かえって判断に時間がかかる邪魔なものになってしまいます。

例えば、英語学習の初期段階で、「5文型」を教えることがあります。英文の型の分類については様々な理論がありますが、英文を5つの文型に分けることは、使い方によっては、英語を理解するうえでの有効な手段となりますし、間違っていないと思います。しかし、「文型の使い途」まで理解して、文型の指導を行っているのでしょうか？教える側が、その使い途まで理解して指導しないと、英文の文型を認識できることが英語力だという勘違いを生み、生徒は無駄な作業をするはめになります。

文型を利用するという事は、英語が持つ次の2つの性質を利用することだと思います。

**[性質1] : それぞれの動詞は、作ることのできる文型がきまっている。**

**[性質2] : 第2文型、第4文型、第5文型は、その型が表す趣旨が決まっている。**

[性質1]に注目して、基本動詞が作ることができる文型を暗記することは、英作文では有効でしょう。また、読解でも、基本動詞が作ることのできる文型を暗記することはある程度有効でしょう。たとえば、makeを見た時点で、make+O、make+O+O、make+O+Cのいずれかの型になっていることをイメージできることは、読解のスピードアップにつながるでしょう。しかし、無数にある動詞の文型を全て覚えることは不可能なので、[性質1]の利用という側面での文型の利用には、限界があると思います。

また、[性質2]に注目して、英文読解で文型を利用することができます。英文中の動詞の意味がわからなくても、文型を利用して英文の意味を推理しようというものです。しかしこの方法は、[性質2]からわかるように、第1文型と第3文型については、有効ではありません。

- |   |           |                    |        |
|---|-----------|--------------------|--------|
| ① | The man [ | led.               | [第1文型] |
| ② | The man [ | led angry.         | [第2文型] |
| ③ | The man [ | led a girl.        | [第3文型] |
| ④ | The man [ | led her a present. | [第4文型] |
| ⑤ | The man [ | led her angry.     | [第5文型] |

文型について学ぶことで、①～⑤の文の文型が理解できるようになります。しかし、文①と文③は、文型が理解できても、結局、[ ]に入る動詞の意味がわからないと、その文が表す意味が理解できません。一方、文②、④、⑤は、[ ]に入る動詞がわからなくても、その文が表す意味が大雑把に推測できます。

- |   |                              |                                   |
|---|------------------------------|-----------------------------------|
| ① | The man [ ]ed.               | その男は[ ? ]だった。                     |
| ② | The man [ ]ed angry.         | その男は怒っていた (または、怒った)。              |
| ③ | The man [ ]ed a girl.        | その男は女の子を (または、女の子に)<br>[ ? ] だった。 |
| ④ | The man [ ]ed her a present. | その男は彼女にプレゼントをあげた (または、<br>見せた)。   |
| ⑤ | The man [ ]ed her angry.     | その男は彼女を怒らせた。                      |

従って、第2、4、5文型は、動詞の意味がわからなくても、その形を認識することでおおよそその文意がわかるという点で、文型を利用する価値はありますが、第1文型、第3文型は、文型がわかっても、結局、具体的な動詞の意味がわからないと、文型の利用の本来の目的、つまり、「英文の意味を理解する」という目的が達成されないのです。逆に、The man died.とかThe man loved a girl.といった文では、dieの意味、loveの意味がわかってしまえば、文型を解析することは、あまり意味のないことでしょう。

英語の初期段階で「文型」を教えることは悪いことではありませんが、その使い途まで理解して指導しないと、せつかくの有効な手段も、ただ時間を潰すだけのパズル遊びになってしまいます。

## 2. 「自動詞と他動詞の区別」って本当に重要？

---

---

使い途が間違っているように思えるもう1つの知識に、「自動詞と他動詞の区別」があります。「英語では、動詞を自動詞と他動詞に区別をすることができる」というのは正しい知識だと思います。しかし、この区別が、英語を教える上で本当に有効に利用されているのでしょうか。

This is the theme park that I have wanted to visit.

(ここは、私が訪れたいと思っていたテーマパークです。)

この文の解説の1つとして、次のように説明されることがあるようです。

「**that** 節内の **visit** が他動詞だから、その後ろの目的語となるべき要素が欠けている。従って、**the theme park that** の **that** は **visit** の目的語になる関係代名詞です。」

この解説は間違ったことは言っていないですが、この説明では「**visit** が自動詞か他動詞かを知っていることが、読解の重要な鍵だ」という印象を与えますし、おそらく、そう思って説明しているのでしょう。

今、「この解説は、間違ったことは言っていない」と書きましたが、実は、不正確な表現が一箇所あります。より正確な表現にするならば、

「**that** 節内の **visit** が、この場合は、他動詞だから、その後ろの目的語となるべき要素がかけている。従って、**the theme park that** の **that** は目的格の関係代名詞です。」

となります。つまり、**visit** は辞書にも載っているように自動詞もあるのですから、「**visit** が他動詞だから」と言い切ってしまうのは間違いで、「**visit** はこの文では他動詞」とか「この文では自動詞」というのが正確な表現です。しかし、「この文では他動詞」と言ってしまうと、「なぜこの文では **visit** を他動詞だと判断したのか？」という疑問が生じます。その疑問に対しては、「**visit** の目的語の位置に先行詞の **the theme park** を入れることができるから」としか答えようがないでしょう。つまり、**visit** が自動詞か他動詞かは、後から確定できることです。実際には、**the theme park that** の部分で、**that** は関係代名詞だとわかり、**that** が関係代名詞だから、**that** 節の内部の名詞の位置、つまり、この場合は **visit** の後が空いているはずだ、という判断をしているだけです。従

って、この文では、**that** が関係代名詞であることが先にわかっている、その後で **visit** が他動詞であったとわかるのが自然な流れであって、**visit** が自動詞か他動詞かを知っているかどうかは重要ではないのです。

英作文では、その動詞が「自動詞」となるか「他動詞」となるか、それとも、その両方になることが可能かを知っていることは、正しい英文を書く上で重要ですが、読解では、その動詞が「自動詞」か「他動詞」かを知っていることはあまり重要ではなく、読んでいけば自然にわかることだと思います。従って、英文読解で、「自動詞」、「他動詞」の区別を重視した解説をするのは、生徒にとってあまり有効なものではないように思えます。

### 3. 「知識の使い途」を意識した指導

今回は「文型」や「自動詞と他動詞」といった英語指導の場で頻繁に用いられている例を取り上げましたが、これら以外にも、使い途をあまり考えずに、生徒に知識を与えていることがあるような気がします。知識としては正しくても、使い途がわからなければ、その知識を有効に利用することはできません。使い途を間違えれば、かえって英語の理解の妨げになります。

与えようとしている知識が正しいかどうかだけでなく、どのような場面で有効で、どのような場面では有効でないのかを分析し、その有効な使い途を含めて生徒に知識を与え、指導することが大切なのだと思います。

